

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502801		
法人名	メディカル・ケア・サービス北海道株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム札幌川沿		
所在地	札幌市南区川沿4条3丁目5-37		
自己評価作成日	令和 8 年 2 月 11 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。
 基本情報リンク先URL https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigvosyoCd=0170502801-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット		
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401		
訪問調査日	令和 8 年 3 月 9 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住宅街ではあるが自然を感じられ、2階リビングの窓からは藻岩山の四季折々の姿を絵画のように観ることが出来る。
 ご入居者様をご家族様と共に支えることを中心に、ご本人様には心地の良い場となり、ご家族様にはホームの活動をご理解いただきながら、ご安心いただけるように、様々な行事の実施、ユニット間交流はもちろんのこと、ご家族様参加の行事(運動会・おまつり・クリスマス会等)を開催している。それにより、ご家族間の交流や日常では見られない一面を垣間見れる機会とご好評をいただいている。また、ご利用者様・ご家族様・職員の共通の話題となっている。
 薬に頼るだけではなく、「食べることを大切にし、「腸活」に力を入れ排泄改善等成果を出している。
 ホーム庭には小さな畑があり、夏には、胡瓜・トマト・インゲン・枝豆・ピーマン等を栽培し、採れたての野菜を味わって頂いている。秋の藻岩神社のお祭りの際は、大人神輿が駐車場まで来られ、間近でお祭りの雰囲気を楽しまれている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- 1) 事業所の基本事項：南区川沿地区の国道230号線に程近い住宅街に位置し、閑静で生活しやすい環境下に立地している。
- 2) 職員の介護姿勢・態度等：職員は、地域密着型サービスの意義を確認しながら介護者側の都合で決めつけず、利用者本位の生活となるよう柔軟なケアを目標に自立支援、介護に努めている。また、内部研修においては理解に差がないよう全職員への内容周知に努めている。
- 3) 家族等の介護への好感：来訪時やお便り等の報告の丁寧さ、細かさ、利用者の心身の変化に即応した対応、また、事業所の提供するサービスについて出された意見への丁寧な回答に高い満足を示している。
- 4) 地域組織・機関等との連携：地域・事業所行事への協力と参加、協力と役割を担っている。BCP(業務継続計画)を策定するなかで、自然災害について地域的な課題についても相互の役割・協力体制を確認している。計画見直しの機会として、ホーム長を中心に研修、訓練内容の更なる充実を検討している事から、成果に期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関 係者とのつながりが広がり深まり、事業所 の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ご利用者様一人ひとりに寄り添い地域の中で暮らしが継続出来るケア実践を目指した運営理念を毎日、朝礼で唱和し確認・共有を行い実践に取り組んでいる。	地域との関連性を大切にした運営理念を事業所内に掲げ、利用者や家族に事業所の約束事として提示している。また、毎朝唱和し、確認・共有することで日々のサービスに活かせるように取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームが主催するおまつり、地域の地区センター利用での体育祭、外食、町内会総会への参加等地域での活動を意識し動くことに努めている。	町内会、地域活動に積極的に参加している。町内会を通じての地域交流の他、事業所主催の催事への呼びかけ等、福祉の相談窓口として、地域への還元、関係維持に努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議内で、認知症の方の対応方法、それぞれの施設の違い、看取りについて、現状をお伝えし、ご質問にはわかりやすく答えるように努めている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの現状、行事・事故報告、地域の情報と要望等を意見交換し、サービスの向上に活かしている。	2か月ごとに定例で実施し、行政や地域、家族代表の協力により意見を得て、運営に反映している。運営状況や利用者の生活活動、事故報告などを議事録にまとめ、推進委員と家族に報告している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	不明点や曖昧なことは、札幌市の担当者に確認、ご指導をいただいているが、事業所の実情やサービスの取り組みを積極的に伝えることは出来ていない。	市担当窓口とは随時連絡し合い、情報提供や助言を受け、運営状況などを報告している。相談をはじめ、利用者の生活に関する事柄や認定更新、保護費関係などでも協働している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止について、3ヶ月に1回チェックシートを用いて振り返りを行い、廃止委員会で検討し、全職員で共有している。その他、2ヶ月ごとに、本社より注意喚起が発行され回覧している。	法人全体で身体拘束や虐待をしないケアを掲げている。指針の下、定例で身体拘束、虐待に係る委員会を開催しており、職員がチェックシートで自身のケアを振り返った結果を検討し、適切なケアの周知徹底が重要であることを確認している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について、3ヶ月に1回チェックシートを用いて振り返りを行い、廃止委員会で検討し、全職員で共有している。その他、2ヶ月ごとに、本社より注意喚起が発行され回覧している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修内で研修の機会を設けている。現在、必要性がある方はいらっしゃらないが、必要性がある時には、関係者と話し合い支援が出来るように努める。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は2時間程度かけて行い、都度、疑問点がないか伺い、事例等も交えて出来る限り分かりやすく説明できるように努め、ご理解・ご納得頂けるようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者・職員は、来訪時や電話でご要望・ご意見を伺っている。年に1回、ご家族アンケートを行い、結果を会議で分析、改善点を話し合い、運営推進会議で報告している。また、アンケート結果は見えるところに掲示している。	苦情等への組織的対応を整えるとともに、家族の来訪時等に利用者の日常を説明し、家族の意向を傾聴して、理解を得るよう努めている。また推進会議での意向も重視している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見・提案をいつでも日常的に話してもらえ環境作りを心掛け、聞いたものに対しては必ず返答が出来るよう心掛けている。	日常の業務や各種会議では、率直な意見表出が定着しており、業務改善やより良いケアの提案、その実践に反映している。内、外部研修等で、業務へのモチベーションを持てるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員各々が技術を磨き向上心を持って働けるよう資格支援制度の発信、実施の条件整備に努めている。ステップアップ制度やそれに伴う給与水準も決められており、目標の見える化となっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ステップアップ制度に基づき、参加すべき研修やその他多岐にわたる研修が準備されている。参加において、外部研修も含め、シフト調整を行い、参加しやすい環境作りを努めており、働きながらトレーニングしていくことを勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	実践研究報告会、Zoomによる研修会参加等が行われており、サービスの質の向上に努めているが、同業者との交流は出来ていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用前のご家族・ご本人からの情報を元に、座席決め等環境作りに努め、ご入居後は積極的にコミュニケーションを図りながら、他人居者様も巻き込み、ご本人の居場所作りを考えながら、馴染んで頂ける環境を整えるように努めます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族には共にご本人を支えて頂くことから、困りごとやご要望等を伝えていただけるように、コミュニケーションを図りながら、職員間で情報共有し、信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを取り、ご家族の要望も加味しながらご本人が出来ること、出来そうなことをユニット全職員で検討し、ケアの実践に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は介護する、ご本人は介護されるの関係性ではなく、出来ることは機能維持のため行っていただき、出来そうなことには支援しながら行っていただいている。共に喜び、感謝を伝える等日頃から実践し、暮らしを共にする関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人を中心として職員とご家族で共に支える考えから、ご家族に生活の様子・心身の状態を電話や月一回のお便り等でお伝えしている。ご家族が状況を把握し、ご本人の認知症状を段階的に受け入れていただけるように、面会の勧め、行事への参加を促している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方との手紙のやり取りや、通っていた病院など関係性の維持の支援に努めている。居室には、馴染みの家具や小物・写真などを用意していただいている。	面会については、家族以外に友人、知人の来訪にも対応している。電話や手紙等の取次ぎでも、馴染みの関係性を支えている。外出支援は家族の協力も得ながら、柔軟に対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の関係性や性格の把握に努め、リビング座席の配置を大切にしている。また、職員がご入居者様同士の関わり合いに意図的に介入し、円滑なコミュニケーション作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、ご本人やご家族からの相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人からご希望やご意向を伺っている。困難な場合も、過去の生活やこれまでの様子を鑑みて検討している。	日々の生活の中で言葉や表情、行動から思いを把握、職員間で共有して、本人の意向に沿った生活となるよう支援している。家族からも情報を得て、定期的なアセスメントを行い、プラン化に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族には、センター方式を利用し生活歴、馴染みの人との関係性・暮らしなどを提出いただいている。ご本人からは会話の中から情報を拾い把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	いち早く変化に気付けるために、日報、一人ひとりの記録(出来事・出来なかったこと・出来そうなこと、認知症状、バイタルチェック、排泄等)をノートで共有し把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	出来る限りご本人の要望を取り入れられるよう、日常会話から得られる情報にも気を付け、ご家族からも聞き取りを行っている。職員はもちろんのこと、往診医等と話し合い、意見やアイデアを反映して、介護計画を作成している。	介護計画は、利用者の意向や出来ることを主体として作成している。定期的見直しや退院時など状況に変化があった時には、協力医療機関からの意見も参考に、適切な支援目標になるよう話し合っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の様子やケアの実践、気づきや工夫等をノート・介護日誌・連絡ノート・モニタリング等のツールを活用しながら情報共有を行い、実践・見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	普段のサービスに限らず、その時々ニーズに対して検討し、出来るサービスに努められるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議や町内会の関りから、情報収集を行い、その方が心身の力を発揮できたり、暮らしを楽しんでいただけるよう支援に努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医に報告・相談を行い連携を図っている。また、外部受診の際に必要な情報はお伝えし、適切な医療を受けられるよう支援に努めている。	本人、家族の要望を伺い、かかりつけ医とのつながりを大切に支援するよう努めている。また、医療機関との協力体制があり、受診内容については記録を基に職員間で共有し、家族にも伝えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の疑問、気づき等は伝え、相談し、適切な対応が出来るように指示等をいただき、支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は日常の様子を伝え、ご利用者や病院関係者が戸惑われることが無いように、対応している。また、早期に退院できるように担当のMSWや看護師に定期的に状況確認等を行い、現状の把握・相談に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に、重度化・終末期についての意向を伺っている。重度化・終末期を迎えるにあたっては、段階的に往診医、ご家族・職員等ご本人に係る関係者で話し合い、意向を確認しながら連携し、チームで支援を行なっている。	契約時には書面で看取りの指針を説明し、希望があれば最後まで支援する旨同意を得ている。重度化・看取りの指針は、利用者にとって適切な対応になるよう、チームとして支援に取り組む事としており、職員は定期的に看取りについて、内部研修で学んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時対応の研修を定期的に行なっている。また、全職員が救急救命講習を受講し、実践に活かせるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、自衛消防訓練および地震災害等訓練、地域のハザードマップの確認・把握、職員間の連絡網の随時更新等災害対策を行なっている。町内会に加入し、地域の方にホームの存在を知って頂いている。	定例で火災、自然災害を想定した避難訓練を実施している。BCP(業務継続計画)を策定し、生活用水、食料の備蓄など災害時の必需品を備えている。地域との災害時の相互の協力体制があり、合意を得ている。	計画の見直しの機会として、研修、訓練内容の更なる充実を検討している事から、成果に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の生活の中で、職員は一人ひとりの状況や他利用者との関係性を情報共有しながら、その方にとって心地良い声掛けや対応が出来るようにしている。	職員は、利用者の人格・個性の尊厳を介護の基本とし、いかなる時もその尊厳を損なうことない介護に専念している。定期的に接遇やケア手法等の見直しの機会を設けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限りご本人の思いや希望を伺えるように、声掛けや選択肢の提示等を行い、自己決定できるように工夫をしながら働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのその日、その時の体調や気分に合わせて、ご本人のペースを尊重し、相談や提案をしながら、無理のない支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好みを伺いながら、季節や気温等を考慮しながらの着替え、整容が出来るように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居の際に食事の好み、アレルギーの有無、食事形態、口腔内の状況を確認している。一人ひとりの力を活かし、テーブル拭き・準備・食事・下膳・食器洗い等、出来ることは一緒にこなしている。	食事は手作りに拘り、嗜好を個別に配慮しながら食事時間も柔軟に対応している。誕生日や催事の際は、出前やテイクアウト等で変化を付けたり、ホーム菜園で皆で苗植え～収穫までを行い、新鮮な野菜を食す等、楽しみある時としている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・バランス・水分量は都度、ノートに打ち込み、職員が確認出来るようになっており、水分は好みのものをお出ししたり、食べやすい形態を調理担当者と相談しながら提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご本人の力に応じた口腔ケア方法を毎食後に実施し、汚れや臭いが生じないように支援している。不具合がある時には、訪問歯科医師に伝え、指示をいただいている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎食前後にトイレ誘導を行い、それぞれの状況に合わせた介助方法で、排泄リズムを促し、失敗やおむつの使用を減らせるように努めている。	トイレで排泄ができるよう、適切な間隔や状態に合わせて誘導している。パットや紙おむつは、不安なく落ち着いて過ごせることを前提に、利用者や家族とも話し合って選定している。食べることを大切に、「腸活」として甘味料をオリゴ糖に置き換え、成果を出している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	「腸活」を意識して、調理担当と相談しながら、メニューに食物繊維を取り入れている。また、甘味料を白砂糖からオリゴ糖に変更し、排便の形態改善に成果を出している。毎日、定期的に体操を行なっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	声掛けに拒否がある時には、無理強いをせず、後日お誘いしている。気持ち良く入浴していただけるように、一人ひとりに合った声掛けに配慮し、タイミングに合わせてるように努めている。	毎日いつでも入浴できる体制を維持しており、週に2回以上を目標に努めている。入浴拒否者には無理強いすることなく、臨機応変に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や習慣に考慮し、状況に合わせて休息を取って頂いている。また、良眠できるように寝具、気温、加湿等の環境整備にも配慮しながら支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的・副作用、用法・用量については、往診時に医師や薬剤師に確認し、薬情でも確認している。薬が変更になった際には、変化等に注意している。また、服薬時にはWチェックを行い、服薬ミスが起きないように注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴、出来ることを知り、張り合いを感じて頂けるように家事参加を促し、必ず感謝の言葉を伝えている。四季の折々の行事や外出・外食を企画し、気分転換等が出来るように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に合わせて職員と一緒に、散歩や畑に収穫、ゴミ捨てに行っている。日常生活の中で行きたい場所等を伺い、外出行事として実施している。また、ご家族参加行事も企画し、楽しんでいただきながらご協力をいただいている。地域行事も声を掛けて頂き、参加出来るようにご配慮をいただいている。	個別に声掛けし、散歩しながら近隣住民と挨拶を交わす等、閉じこもらない介護に取り組んでおり、近隣の散歩や買い物等は、職員同行で可能な限り出来るよう支援している。また、家族の協力を得ながら遠方への外出も可能としている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持したり使えることの大切さは理解している。一人ひとりの認知機能の状況に合わせて、不安が助長しないように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や大切な方からの電話は取次ぎ、手紙はお渡し、ご希望があれば返信出来るようにしている。年賀状は毎年、ご家族宛に一言書いて頂き送ることを支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間において、光・音・温度・湿度等の環境整備に努めている。四季折々の行事、日常生活の様子、機能訓練の様子の写真を掲示、装飾を行い、心地良く過ごして頂けるように工夫している。	リビングでは、食卓やソファで利用者それぞれが寛いで過ごせる空間作りをしており、温・湿度管理や換気、音や光に配慮している。利用者と共に作成した季節を感じられる作品を掲示する等、温かみある雰囲気作りをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者様同士が楽しく過ごせるように、座席替えやテーブルの配置を工夫しながら行っている。廊下やテーブルから離れた場所にソファを配置し、ひとりになれたり、気の合った方と過ごせる空間も作っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、ご本人の馴染みの物をお持ちいただくようにご家族にお話している。入居後はご本人の動き等に合わせ、ご家族に提案・相談しながら、居心地よく過ごして頂けるように工夫している。	本人の安心できる環境を整えるために、入居前の自宅の様子を理解し、動線やベッドの配置を検討している。思い出のあるものが持ち込まれ、家族写真や趣味の物を手元に置いて、自分らしく安心して暮らせる環境作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	カレンダーや時計、季節が感じられる掲示物、トイレ等の表示、動線に合わせた配置・移動を工夫し、出来るだけ安全に自立した生活が送れるように努めている。		